

令和7年度学校評価計画書

学校名（阿品台東小学校）

評価計画				自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策		
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析			
基礎・基本の定着	◎基礎学力の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査の結果の共有と抽出児童（ステップ2）への全職員によるアセスメントの実施</li> <li>全ての児童が参加し、わかる授業づくり（UD・ICT活用）</li> <li>デジタルドリルや音声計算活動等による既習事項の反復練習や語彙を増やす活動</li> <li>学びを自己調整できるような振り返りの充実</li> <li>地域学校協働本部と連携した放課後学習の実施</li> </ul>	<p>☆廿日市市学力定着状況調査（4年・1月実施）にあわせて3年生以上で実施する標準学力調査（国語・算数）の結果、ステップ（到達度）1・2の割合。</p> <p>☆学期末単元テスト（国語・算数）の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の結果、学級平均の結果が期待平均値を上回った学級数。</p> <p>☆児童アンケート 「振り返りをすることで、勉強した内容や学び方、役に立つか等について考えることができた。」</p>	<p>国語 30% 未満 算数 30% 未満</p> <p>8/11 学級</p> <p>80%</p>	—	国 24.1% 算 34.5%	124%	87%	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・ステップ1・2の児童の割合は、国語24.1%、算数34.5%であった。国語は目標を達成したが、算数は目標を達成することができなかった。学期末単元テストについては、期待平均値を上回ったクラスは、国語「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」、算数「知識・技能」は8クラス、算数「思考力・判断力・表現力」は4クラスで、中間よりも少し増えた。</p> <p>・国語の漢字や言葉、算数の基礎的な計算力については概ね定着してきた。全ての児童にとってわかる授業づくりを意識したことや、反復練習による効果が出てきていると捉えている。</p> <p>しかし、算数の思考力については課題があり、基礎的な計算力の個人差が大きく、学年が上がるにつれその差が大きくなっていることが影響していると考えられる。</p> <p>・学習の振り返りについては、前回よりも4%下がっている。振り返りの時間をしっかり確保していく必要がある。</p> <p>・また、今後に向けて生活科・総合的な学習の時間では、単元の途中で自らの学びを振り返らせ、どう学んでいくのかについて調整させる場面を設けるなどの工夫が必要である。</p>	<p>・漢字や計算など、反復練習が思考力の定着につながるまでには、十分に体得するまで習熟させることが大切である。</p> <p>・タブレット学習で基本的な操作に課題のある児童への支援や工夫がいるのではないかと。</p>	<p>・国語科では、漢字や構成を意識した文章を書くことに課題が見られた。日記等で漢字を使う習慣をつけていく。また、「聞き耳タイム」で、段落を意識して感想を書かせていく。</p> <p>・算数科では、計算の仕方の説明や文章問題の立式に課題が見られた。授業の中で計算の仕方を説明したり、問題文をイメージする力を養うため問題文からわかる情報を整理し、イラストや図にする時間をとっていく。</p> <p>・基礎学力の定着を図るため、引き続き、既習事項の復習や、実態に応じた反復練習を継続する。</p> <p>・振り返りを書く時間を確保するとともに、振り返りの視点を明確にし、次の学習につながるようにしていく。</p> <p>・タブレット操作に課題がある児童へは、友だちとの関わりの中で操作に慣れていくようにする。</p>
主体的に課題解決をする児童の育成	自分で考え自分から取り組む児童の育成	<p>【教科指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選択と自己決定及び対話の場を設定した授業づくり</li> <li>自ら学びに向かえるような学習環境の整備</li> <li>児童主体の課題解決学習の充実（総合的な学習の時間を中心に全教科で）</li> </ul> <p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表委員会や委員会活動を中心とした、児童主体の活動の充実（学校をよりよくする運動、ゆびとま 等）</li> </ul> <p>【健康教育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活きりり週間による生活習慣の見直しと取組</li> </ul>	<p>☆全国学力・学習状況調査児童質問調査 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合」【市共通項目】</p> <p>☆児童アンケート 「問題や課題について、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。」（教科指導部）</p> <p>「よりよい学校生活を目指して、自分で考え自分から取り組んでいる。」（生徒指導部）</p> <p>「生活課題を自分で考え、取り組むことができた。」9月・1月実施(健康教育部)</p>	<p>80%</p> <p>80%</p> <p>75%</p> <p>70%</p>	73%	—	91.3%	110%	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・学習に対して、自分から取り組んでいる児童の割合は88%で、中間よりも3%上昇した。高学年児童の肯定的回答も84%と目標値を上回った。児童にとって必要感のある話題で友だちと対話をする場を設けたことで、主体的に課題解決をすることができたと考えられる。</p> <p>・児童の主体性を尊重した活動の推進により、よりよい学校づくりに対する認識が高まるとともに、活動に参加した児童の達成感や満足度が肯定的な回答につながっている。</p> <p>・最終の結果は目標値よりポイントは高いものの、中間よりは結果が落ちている。生活きりり週間だけの取り組みではなく日常的に生活習慣を省みることを意識させていかなければいけないと考える。</p>	<p>・児童の学習への意欲は「面白い」と感じられるかどうかである。快：不快が左右される。児童がやってみよう、やってみたいと感じられる活動を仕組むことが大切である。</p> <p>・「ゆびとま」はこれからも取り組んでほしい。</p> <p>・長時間、深夜までSNSを使っている児童は、登校時に元気が見られない傾向にある。「生活きりり週間」などでの取組を通して、保護者にも生活リズムを整えることの大切さに意識を向けもらえるように発信しているとよいのでは。</p>	<p>・児童が自分事として考えられるような課題を工夫し、様々な学び方や協働的に課題解決できる場を設定していく。</p> <p>・今後も、児童の課題意識を基にテーマを設定し、可能な限り児童の主体性に委ねた効果的な活動を推進する。また活動に対する職員の好意的なフィードバックや児童相互の評価活動を通して価値付けをしていく。</p> <p>・保健だよりや学年だよりを通して、保護者に生活習慣の見直しを呼びかける。また、児童には、生活きりり週間だけではなく、平日頃から生活リズムを整えることを児童に促す。教師の意識改善も図っていく。</p>

<p>自己有用感の育成 (中学校区共通)</p>	<p>◎「つながり」の主体化・日常化を図る。</p>	<p>○児童の主体的活動の工夫・充実 ・「ゆびとま」等の児童の思いや願いを実現させる日常的な取組 ・ピア・サポートの活動(行事、学習) ・ひがしみつけ(掲示で共有する) ・縦割り班掃除の充実 ○居場所感を高める取組の導入 ・安心できる学級づくりの理論研 ・適応間尺度(アセス)を反映した児童理解と個別の支援</p>	<p>☆児童アンケート 「自分はまわりの人の役に立っていると思います。」</p> <p>☆児童アンケート 「自分のよさは周りの人から認められている。」</p>	<p>80%</p>	<p>76%</p>	<p>80%</p>	<p>100%</p>	<p>A</p>	<p>・低学年児童と比較して高学年児童の回答に否定的な傾向が表れている。このことは、発達段階によるものもあると思われるが、高学年にもより役に立っていると感じることができると取組や声かけを増やしていく必要がある。 ・児童への他者評価が可視化され、児童が適切に肯定的な自己評価ができる手立てを行ってきた効果だと捉えている。今後も効果的に取り組む必要がある。</p>	<p>・高学年が低学年に比べて肯定的な回答が低いのが気になった。 ・異学年で活動することが日常化しており、当たり前のことになっているため、「できている」という認識が薄いのではないかと。</p>	<p>・日常的に取り組んでいるピア・サポートやひがしみつけ、縦割り班活動等について、職員の肯定的なフィードバックや児童相互の評価活動を通して、価値付けをしていく。</p>
<p>健康的な生活と運動への関心の向上</p>	<p>体を動かすことが楽しいと感じる児童の育成</p>	<p>○年間を通した体を動かす活動(体力づくり) ・学級遊びや縦割り・全校遊び等の取組 ・児童主体の体を動かすイベント(年に1回) ・体育の授業における工夫(職員研修)</p>	<p>☆児童アンケート 「外で運動したり遊んだりしています」(アンケート問11)</p>	<p>80%</p>	<p>83%</p>	<p>88.8%</p>	<p>104%</p>	<p>A</p>	<p>・全体でのアンケートの肯定的な回答は目標値を超えている。しかし、高学年だけを見ていくと、否定的な意見の割合が大きくなっている。今後に向けて児童主体の体を動かすイベントとして体育館を開放し全体遊び等の取り組みを行うのが効果的ではと考えている。また、3学期に肯定的な回答が増加している点から、否定的な回答の要因として、「暑さ」が考えられる。</p>	<p>・時代とともに遊びの質が変わってきており、体を使う遊びを紹介し、取り組んでみては。 ・暑い日の遊び場の確保として、空いている時の中学校の体育館の使用も要検討。 ・サーキットトレーニングなどを取り入れて、小学生のうちに筋力をつけることが大切。</p>	<p>・否定的な意見の要因として考えられる「暑さ」の対応として、室内で行える運動を推奨していく。暑さにより外で遊べないという日が続いたため、遊べる環境の確保やアンケート内容の検討も行う。</p>
<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>◎子供と向き合う時間の確保に努める。</p>	<p>・クリエイティブデーの充実 ・定時退校日の設定 ・会議の事前の時間設定(資料の事前配布含む) ・部会、学年会等における業務改善(見直し、整理等)の充実</p>	<p>☆教職員アンケート 「子どもと向き合う時間が確保できていると感じる。」</p>	<p>80%</p>	<p>72%</p>	<p>71%</p>	<p>89%</p>	<p>B</p>	<p>・29%の教員が子供と向き合う時間の確保ができていないと感じている。担う仕事や、役割に応じてそれぞれにあるが、業務内容をできるだけ公平にすることも一考しなければならない。 ・事務時間の確保のためクリエイティブデーの実施や研修回数を必要最低限に設定する等工夫をしてくれている。成績処理週間には、児童を5校時で下校させることも行っている。さらに時間の確保ができる時期はないか、可能性を探る必要がある。 ・生徒指導上の課題に対して、丁寧に対応していることも起因している。生徒指導の未然防止のためにも、情報収集と早期発見・対応情報共有を今後も意識して取り組んでいく。</p>	<p>・先生方の勤務時間が超過していることについては、どれだけその時間を縮めることができるかを検討できるとよい。先生方が元気で児童に向き合う為にも大切。 ・先生方が、どのような状態を「子どもと向き合っている」ととらえているかによって、アンケートの数値が異なってくるのではないかと。</p>	<p>・提示されている退校時刻を守り、できるだけ早く退校できるように声をかける。 ・会議を水曜日には入れないようにして、定時に退校できる職員を増やす。 ・本校の実態に合った「チーム担任制」を取り入れ、チームで児童を見ることにより、職員が時間にゆとりが生まれたと実感できるようにしていく。 ・どのような状態を「子どもと向き合っている」のかについての周知や確認を行う。</p>
<p>開かれた学校づくりに努め、家庭・地域との協働・信頼関係を構築する。</p>	<p>地域への関心と愛着を持たせる教育活動を進める。</p>	<p>・保護者や地域への迅速かつ適切な対応 ・コミュニティスクールの活性化 ・通信、HPによる情報発信</p>	<p>☆保護者アンケート 「学校の取組に満足している。」</p>	<p>90%</p>	<p>95.6%</p>	<p>95%</p>	<p>106%</p>	<p>A</p>	<p>・多くの保護者には肯定的な評価をいただいているが、一部の保護者には、満足してもらえていない傾向がある。今回のアンケートにあがった意見に対して、全教職員で共有して、今後に向けて改善点等協議していく。そして可能な意見に対して答えていくなどして、さらに満足度が上がるように努めていく。</p>	<p>・地域の愛着と関心を持たせる活動をどれだけ仕組むかが大切。地域のことを語れる児童に育てほしい。そのためにも、地域の特色の歌や行事に触れさせることが大切。</p>	<p>・生徒指導対応や環境整備など、児童が安心安全に学校で過ごせるよう職員や地域の方々との連携を更に密にする。 ・保護者アンケートからの要望に可能な内容には応えていく。 ・地域を題材とした学習内容の整理と見直し、学習内容の工夫を呼び掛ける。</p>

A: 100%    B: 100%未満～80%以上    C: 80%未満～60%以上    D: 60%未満

- 短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して3項目以内とする。
- 重点目標を中心に「評価項目・指標」(めざす姿)を精選し、取組を進めること。
- 別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。(【市共通項目】⇒廿日市市教育委員会の重点施策)